

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	リハビリクスセンターおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置数が充実しているため、細やかな支援を行うことができる。	それぞれの専門職員の経験を生かして支援しているため、ひとりひとりにあった常に変化があり充実した支援を志している。	年間計画を作成して、準備にゆとりが持てるように担当を設けて準備している。
2	スタッフの向上心と児童の発達への願いが強いため、スタッフ同士がお互いに切磋琢磨できる。	指導訓練室が狭いために、工夫して支援の場所の確保に努めている。	支援の成果を評価して次のステップへ進めるように振り返りを行っている。
3	重心・医療ケア専門の事業所だが、子ども病院が近くにあり、立地条件に恵まれている。	子どもが楽しく過ごせる環境作りと、利用回数に応じてメダルや賞状等、本人やご家族が喜び励みになるような物を工夫して贈っている。	スタッフそれぞれの専門分野を生かして業務分担を行っているが、より共有を深めて療育にあたっていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者送迎をお願いしているが、登所時間が同じ為、駐車場が不足したときに、保護者にあくまで近くに停車して待ってもらっている。	登所時間を10分から15分ずらし順番に来てもらうように考えている。	登所時間をずらすことによって、保護者への連絡や引継ぎの時間がとれ、より困りごとや事業所へのニーズを聞き取りやすいように意識する。
2	地域連携、学校・幼稚園との交流が事業所の対象児童がら、広げていくことが難しい。	重度、医療ケア児対象の児童発達支援のため、利用している幼稚園や保育所の数が少ない。	地域に根づいていく、地域の輪の考えのもと、去年はチャリティバザーを開催した。 今年もチャリティバザーは開催予定だが、そのほかにも小学校に進級するお子さんもいるので、学校との連携も高めた
3	指導訓練室の広さや事務のスペースが限られているので、活動を行うには狭く、工夫が必要。	広さの変更は賃貸しの建物の構造上無理なため、かたづけや、リハビリマットの配置に工夫が必要。	諦めずに常に広く使用する工夫とアイデアを考え、その日の予定通りにきびきびと動くようにする。 終わった物を床においておくと踏んでしまい危険なため使用後の物は速やかに片づける。

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	リハリンクスセンターおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		2024年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		2024年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置数が充実しているため、細やかな支援を行うことができている。	それぞれの専門職員の経験を生かして支援しているため、ひとりひとりにあった常に変化があり充実した支援を志している。	年間計画を作成して、準備にゆとりが持てるように担当を設けて準備している。
2	スタッフの向上心と児童の成長への願いが強いため、スタッフ同士がお互いに切磋琢磨できる。	指導訓練室が狭いために、工夫して支援の場所の確保に努めている。	支援の成果を評価して次のステップへ進めるように振り返りを行っている。
3	重心・医療ケア専門の事業所だが、子ども病院、千葉リハセンターが近くにあり、緊急時に速やかに対応できる。	子どもが集中して体の個別学習ができるように、静かな環境を心掛けている。	スタッフそれぞれの専門分野を生かして業務分担を行っているが、より共有を深めて支援にあたっていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携、学校・幼稚園との交流が事業所の対象児童がら、広げていくことが難しい。	重度、医療ケア児対象の児童発達支援のため、利用している幼稚園や保育所の数が少ない。	地域に根づいていく、地域の輪の考えのもと、去年はチャリティバザーを開催した。 今年もチャリティバザーは開催予定だが、そのほかにも小学校に進級するお子さんもいるので、学校との連携も高めた
2	指導訓練室の広さや事務のスペースが限られているので、活動を行うには狭く、工夫が必要。	広さの変更は賃貸しの建物の構造上無理なため、かたづけや、リハビリマットの配置に工夫が必要。	諦めずに常に広く使用する工夫とアイデアを考え、その日の予定通りにきびきびと動くようにする。 終わった物を床においておくと踏んでしまい危険なため使用後の物は速やかに片づける。
3	放デイは児童発達支援に比べると利用者が少ない。	開所してから児童発達支援に重点を置いたため、利用者が少なかった。	4月からは小学校に進学する児童が増えるため、充実した支援が行えるように創意工夫する、